

日本獣医師会学会学術誌投稿規程（抜粋）

用 語： 原稿の記述はすべて和文とし、現代仮名使いを使用する。漢字は専門用語を除いて常用漢字の範囲にとどめる。また、略称を使用する場合は、論文で初めて使用する箇所ですべての漢字を掲げ、その後に略称をカッコ内に表示する。学名及び常用されているラテン語等、イタリックで示すものにはアンダーラインを付す。数字は算用数字を用い、度量衡の単位及び略語はCGS 単位またはSI 単位を用いる。また、数字及び英字は2 字で1 文字とし、ワープロの場合は半角文字を用いる。

〔例〕 度量衡の単位及び略語：

mol, mmol, N, %, m, cm, mm, μ m, nm, pm, cm^2 , k ℓ , d ℓ , ℓ , m ℓ , μ ℓ , kg, g, mg, μ g, ng, pg, hr, min, sec, rpm, Hz, Bq, cpm, dpm, ppm, ppb, $^{\circ}\text{C}$, J, pH, LD₅₀, IU, kDa

外国語ー 外国人名、外国機関名等は、原語のまま第1 字を大文字で記述する。ただし、国名、地名等は原則としてカタカナで表示する。

動植物名ー 動植物名は、原則として漢字を使用する。ただし、一般的に使用されているものに限り、それ以外のものはカタカナで表示する。

薬品・機器名ー 薬品名は、原則として一般名または局方名を使用し、カタカナで表示する。また、機器名等は原則として一般に使われている名称を和文で表示する。

引用文献： 研究に密接に関係のあるものを引用する。引用できる文献は、学会誌、専門的学術誌あるいは専門書とし、学会抄録、講演会テキスト、レフリー制度のない商業雑誌等は原則として引用できない。引用文献は、文中に最初に引用された順に配列し、本文中では引用箇所に〔1, 2-5〕のように記載する。記述は、著者名、論文のタイトル名、誌名、巻、頁、年次とする。

また、単行本の場合は、著者名、記事のタイトル名、書名、訳者名、編者名、版、頁、発行者、発行地、年次とする。

和文誌名は原則として省略しない。ただし、慣例的に使用されているものはこの限りではない（例：日獣会誌、日獣誌など）。欧文誌名の省略は Journal Title Abbreviations による。指定のないものは省略しない。

また、著者は次の具体例を参考に全員列記する。なお、訳者は1 名のみ記載し、その他は和文では「他」とし、英文では「et al」とする。

【引用文献の具体例】（本例は、ワープロで記述しやすい方法で表示したものです。）

< 雑誌の場合 >

- 〔1〕 青山太郎, 青山花子, 赤坂次郎：子牛の開放性骨折の1 例, 日獣会誌, 45, 115-120 (1992)
- 〔2〕 青山太郎, 青山花子, 江戸三郎, 東京 愛：犬のレプトスピラ症の抗原検出法, 日獣会誌, 30, 135-138 (1992)
- 〔3〕 Aoyama T, Aoyama H: The welfare of animals, Jpn J Vet Sci, 54, 120-124 (1989)
- 〔4〕 Aoyama T, Aoyama H, Kanda J: A survey of heavy-metal contamination in imported seafood, J Vet Med Sci, 54, 126-130 (1992)
- 〔5〕 Aoyama T, Aoyama H, Suzuki K, Tanaka S, Takahashi Y: Pathogenicity of the aino virus in japan, Am J Vet Res, 53, 155-160 (1992)

< 単行本の場合 >

- 〔1〕 神田一郎：マイコプラズマ, 獣医微生物学, 江戸三郎編, 第1 版, 100-103, 青山堂出版, 東京 (1992)
- 〔2〕 Smith J: マイコトキシン中毒, 選択毒性, 赤坂次郎訳, 250, 学会出版センター, 東京 (1989)
- 〔3〕 Roitt IM: Immunophoresis, Immunology, Fred OG, et al eds, 2nd ed, 150-160, Grower Med Publ, London (1989)